

平成18年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学工学部

評価委員会

平成19年12月

目 次

平成18年度教員の個人評価について.....	1
1. 教員個人評価の実施状況.....	2
1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など.....	2
1.2. 教員個人評価の実施概要.....	3
1.2.1. 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会.....	3
1.2.2. 実施経緯、内容、方法等.....	3
1.2.3. 添付資料.....	5
2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員） が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3. 評価領域別の集計及び分析.....	7
3.1. 教育の領域.....	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項.....	7
3.1.2. 教育改善に関する事項.....	9
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項.....	14
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	15
3.1.5. 学生の受賞等.....	16
3.2. 研究の領域.....	18
3.2.1. 著書、論文等の発表実績.....	18
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績.....	19
3.2.3. 受賞等の実績.....	21
3.3. 国際・社会貢献の領域.....	23
3.3.1. 国際交流実績.....	23
3.3.2. 社会貢献実績.....	24
3.4. 組織運営の領域.....	27
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	28
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	28
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	29
4.3. 評価委員からのコメント.....	37

理工学部評価委員会委員名簿

平成18年度教員の個人評価について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において行うこととされ、この度、平成18年度分についての結果が取りまとめられました。

自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献及び組織運営の領域ごとの領域評価と総合評価が、それぞれ5段階の評価点で記入されており、個人評価実施委員会は、各教員の個人目標申告書、教員活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行いました。

教員の個人評価は、試行を含めると今回が3回目であり、理工学部教員の多くは概ね妥当な自己点検・評価を行っているものと判断されました。

昨年度から個人達成目標として掲げる各領域の事項に、学科で達成すべき共通目標を盛り込み、若干客観性をもたせる工夫をしましたが、活動実績の具体的記載がないまま自己評価をしているケースが若干見受けられました。評価に当たっては、その根拠を示すことが不可欠であることを認識して欲しいと思います。

今般の報告書は、学科毎に集計された活動実績及び自己評価の結果を、理工学部として「教員個人評価の集計・分析」と題し取りまとめたものですが、今後、このような教員の個人評価が単なる評価作業に留まることなく、自己の教育研究等の活動改善が継続的に図られ学部・学科の活性化に資することを期待する次第です。

理工学部長 中 島 晃

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など

理工学部 7 学科と大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授、助教授、講師、助手）に対して、別紙様式 1～4 に関して教員個人評価を実施し、全員から回答を得た（実施率 100%）。

学 科	職 種	対象教員数	実施率(%)
数理科学科	教 授	7	100
	助教授	4	100
物理科学科	教 授	7	100
	助教授 (講師含)	8	100
知能情報システム学科	教 授	6	100
	助教授 (講師含)	5	100
	助 手	4	100
機能物質化学科	教 授	11	100
	助教授	13	100
	助 手	6	100
機械システム工学科	教 授	9	100
	助教授 (講師含)	8	100
	助 手	5	100
電気電子工学科	教 授	8	100
	助教授 (講師含)	14	100
	助 手	3	100
都市工学科	教 授	11	100
	助教授 (講師含)	8	100
	助 手	3	100
理工学部 (合計)	教 授	59	100
	助教授 (講師含)	60	100
	助 手	21	100

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯、内容、方法等

平成19年1月31日 理工学部評価委員会

- ・平成18年度自己点検・評価についての実施スケジュール及び様式（推奨様式、共通様式）の検討を行う。

平成19年2月21日 理工学部評価委員会

- ・理工学部教員の個人評価日程表案及び様式（推奨様式、共通様式）を決定した。
- ・平成18年度教員個人評価は、諸般の事情から、平成18年度個人評価実施委員（以下、学科長と記す）があたることを決定した。

平成19年2月28日 理工学部評価委員会

- ・平成18年度教員個人評価集計・分析報告書の内容を検討し、様式を決定。

平成19年3月14日

- ・学部長から、各教員へ次の資料の提出依頼を行う。
（様式は、メールで送信）
- ・各教員は、平成18年度の自己点検・評価を実施し、平成19年度の個人目標を策定する。（学部長宛メールで返信）
平成18年度「個人目標申告書」（別紙様式1）（記載済分再提出）
平成18年度「活動実績報告書」（別紙様式2） 提出不要
別紙様式2については、「理工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書」に換える。
平成18年度「自己点検・評価書」（別紙様式3）
平成19年度「個人目標申告書」（別紙様式1）

平成19年4月11日 理工学部評価委員会

- ・学部等活動実績年次報告書について検討する。

平成19年5月8日 理工学部評価委員会

- ・提出された学部等活動実績年次報告書について検討する。

平成19年（3月中旬）～6月下旬

- ・学科の教員毎に整理する

平成19年7月5日

- ・学部長は、各学科長へ評価を依頼する。
（フラッシュメモリを手渡しする）

平成19年8月31日

- ・各学科長は、別紙様式1、教員活動実績年次報告書(推奨様式)及び別紙様式3に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、平成18年度「個人評価結果」（別紙様式4）に記載の上、別紙様式1・3を含め、学部長宛に送付する。

(フラッシュメモリ及びペーパーを送付)

平成19年9月初旬

- ・個人評価実施委員会は、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査する。

平成19年9月中旬

- ・学部長は、別紙様式1、教員活動実績年次報告書(推奨様式)及び別紙様式3(自己点検・評価書)に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、学科長に提出された平成18年度「個人評価結果」(別紙様式4)の評価内容を確認し、必要があれば、学部長は、評価結果の補足等及び学部長コメントを記載する。

なお、学部長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求める。

また、学部長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取する。

平成19年9月14日

- ・学部長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した個人評価結果(別紙様式4)を、当該職員に封書で通知する。

平成19年9月27日

- ・教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内に異議申立書(様式任意)を学部長に提出することができる。

個人評価実施委員会は、異議申立書を提出した教員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に際し、評価実施委員会は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、必要と認められる者から意見を求める。

平成19年10月15日

- ・学部長は、各学科長へ平成18年度教員個人評価結果の「集計と分析」を依頼する。

平成19年10月26日

- ・各学科長は、作成後学部長宛提出する。

平成19年11月初旬～中旬

- ・個人評価実施委員会は、学部版の報告書を作成する。

平成19年12月 日 理工学部評価委員会

- ・平成18年教員個人評価集計・分析報告書案について検討し、承認する。

1.2.3. 添付資料

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書（別紙様式 2）

自己点検評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行った教育研究活動等

はじめに、理工学部教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行った教育研究活動等を以下に示す。

- 機能物質化学科：日本技術者教育認定機構（J A B E E）平成 18 年度本審査受審
- 電気電子工学科：日本技術者教育認定機構（J A B E E）平成 19 年度受審のための準備活動
- 平成 18 年度理工学部・工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：
 - 相手国：中国、韓国、インドネシア
 - 数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、電気電子工学科、機械システム工学科、機能物質化学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 大学院（工学研究科と農学研究科との連携）国際環境科学特別コース
 - 電気電子工学専攻、機械システム工学専攻、機能物質化学専攻、都市工学専攻、生体機能システム制御工学専攻、エネルギー物質科学専攻（後期課程）、生体機能システム制御工学専攻（後期課程）、システム生産科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 平成 17 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：協定校からの交換留学生の教育プログラム：物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、電気電子工学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 高等学校ジョイントセミナー、出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - 平成 18 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月、8 月期ならびに 12 月、1 月期の空調断続運転
 - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3. 1 に教員の担当科目数 (学部、修士)、受講学生数 (延べ人数)、卒業研究指導学生数、修士特別研究指導学生数、博士研究指導学生数を表している。

表 3. 1 教員 1 人当たりの講義担当、指導学生数

学 科	職 種	学 部			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	修士 学生 指導 数	博士 学生 指導 数
数理科学科	教 授	4.7	207	2.7	1.7	31.9	2.7	0.1
	助教授	5.3	214	3.0	1.3	19.3	1.8	
物理科学科	教 授	7.1	294	2.3	1.0	16.3	2.4	0.3
	助教授	5.6	182	2.3	1.4	14.3	2.1	
知能情報 システム学科	教 授	5.5	314	6.2	1.7	16.5	3.3	0.8
	助教授 (講師含)	4.2	294	4.4	1.0	12.4	2.2	
	助 手	0.0	0.0	1.8				
機能物質化学科	教 授	5.7	260	3.4	2.4	19.8	3.2	2.0
	助教授	6.3	275	3.1	2.3	21.5	3.0	
	助 手	0.0	0.0	2.0				
機械システム 工学科	教 授	4.6	339	4.0	1.7	16.9	4.2	0.4
	助教授 (講師含)	4.0	290	3.4	1.3	10.9	1.9	
	助 手	1.4	122	1.0				
電気電子工学科	教 授	4.6	276	6.9	3.5	31.9	7.1	2.0
	助教授 (講師含)	4.5	270.0	4.6	2.5	20.1	4.7	
	助 手	0.5	50.3	0.0				
都市工学科*	教 授	3.5	275	4.5	1.5	23.4	3.3	1.1
	助教授	3.3	235	5.3	1.0	9.9	3.0	
	助 手	2.0	129	0.0				

(*)学部担当科目数には教養教育科目は含まれていない。

【数理科学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 4.7 科目、延べ人数 207 名）、卒研指導学生数 2.7 名、修士指導学生数 2.7 名、博士指導学生数 0.1 名である。
- ・ 助教授は学部（平均：担当科目数 5.3 科目、延べ人数 214 名）、卒研指導学生数 3 名、修士指導学生数 1.3 名であり、平均して教授よりも多くの科目、学部生の教育を担当している。

【物理科学科】

- ・ 教授は平均して学部授業担当コマ数 7.1（延べ人数 294 名）、卒研指導学生数 2.3 名、修士授業担当コマ数 1.0、修士指導学生数 2.4 名、博士指導学生数 0.3 名である。
- ・ 助教授は平均して 学部授業担当コマ数 5.6（延べ人数 170 名）、卒研指導学生数 1.8 名、修士授業担当コマ数 1.6、修士指導学生数 3.4 名である。
- ・ 講師は助教授同様に教育と研究の役割を担っている。講師は平均して学部授業担当コマ数 5.7（延べ人数 202 名）、卒研指導学生数 3 名、修士授業担当コマ数 1.0 である。講師の中には修士の実質指導を行っている教員がいる。

【知能情報システム学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 5.5 科目、延べ人数 313.7）、卒研指導学生数 37 名、修士指導学生数 20 名、博士指導学生数 5 名である。
- ・ 助教授は学部（平均：担当科目数 4.2 科目、延べ人数 294.4 名）、卒研指導学生数 22 名、修士指導学生数 11 名である。助教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- ・ 助手は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 1.8 名である。助手は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

【機能物質化学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 5.7 科目、延べ人数 260 名）、卒研指導学生数 3.4 名、修士指導学生数 3.2 名、博士指導学生数 2.0 名である。
- ・ 助教授は学部（平均：担当科目数 6.3 科目、延べ人数 275 名）、卒研指導学生数 3.1 名、修士指導学生数 3.0 名であり、教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。助教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- ・ 助手は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 330 名で前期後期を通じて 5.0 コマを担当している。更に、助手は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。
- ・ 教授と助教授は専門科目に関して平等に教育を担当するようにカリキュラムが組まれており、卒研配属の学生数も同じである。助手にも卒研学生（平均 2.0 名）が配属され、卒業研究の指導を行っている。

【機械システム工学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 4.6 科目、延べ人数 339 名）、卒研指導学生数 4 名、

大学院（平均：担当科目数 1.7 科目、延べ人数 17 名）修士指導学生数 4.2 名、博士指導学生数 0.44 名である。

- ・ 助教授は学部（平均：担当科目数 4.0 科目、延べ人数 290 名）、卒研指導学生数 3.4 名。大学院（平均：担当科目数 1.3 科目、延べ人数 11 名）修士指導学生数 1.9 名、博士指導学生数 0.13 名である。助教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- ・ 助手は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 122 名で前期後期を通じて 2.5 科目相当を担当している。卒研指導学生数は 1 名である。更に、助手は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

【電気電子工学科】

- ・ 教授は学部（平均：学部担当科目数 4.6 科目、延べ人数 276 名、修士担当科目数 3.5 科目、延べ人数 31.9 名）、卒研指導学生数 6.8 名、修士指導学生数 7.1 名、博士指導学生数 2.0 名である。
- ・ 助教授（講師含む）は学部（平均：学部担当科目数 4.5 科目、延べ人数 270 名、修士担当科目数 2.5 科目、延べ人数 20.1 名）、卒研指導学生数 4.6 名、修士指導学生数 4.7 名であるが、学生実験科目を含むので、教授と同程度の学生の教育を担当している。助教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- ・ 助手は主に実験指導を担当している。担当科目は平均 0.5 科目、指導する学生数は平均 50.3 名であるが、前期後期を通じて平均 3 科目分担当している。更に、助手は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っている。

【都市工学科】

- ・ 教授は学部（平均：担当科目数 3.5 科目、延べ人数 275 名）、卒研指導学生数 4.5 名、修士指導学生数 3.3 名、博士指導学生数 1.1 名である。
- ・ 助教授は学部（平均：担当科目数 3.3 科目、延べ人数 235 名）、卒研指導学生数 5.3 名、修士指導学生数 3.0 名であり、教授よりも少なめの科目、学生の教育を担当している。助教授の中には博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- ・ 卒業研究指導学生や修士学生の指導数については、複数の教員で指導する研究室もあり、一概に比較することはできない。また低平地研究センターの教員(教授、助教授、講師など)も都市工学科の学部学生、大学院生を指導している。
- ・ 助手は主に実験指導を担当している。指導する学生数は平均 129 名で前期後期を通じて 3.0 コマを担当している。更に、助手は、教授あるいは助教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践をおこなっている。

【数理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・「線形代数学Ⅰ」「線形代数学演習Ⅰ」「線形代数学基礎Ⅱ」において、毎回の授業前に前回の授業内容をまとめ、宿題とレポートを課した（教授）
- ・「代数学Ⅰ」「線形代数学基礎演習Ⅱ」の授業で、ほぼ毎回レポート課題を課し、自己学習を促した。解答と解説も授業の中で与えた（教授）
- ・「図形の幾何（トポロジー入門）」「数理学特別講義（複素関数論演習Ⅰ）」「数理学特別講義（集合・位相演習Ⅱ）」の授業で、毎回レポートを課して、自主学習を促した（助教授）
- ・「微分積分学基礎Ⅰ」では最重要事項を載せた資料の配布と理解度チェックテストの実施、「数理科学概論」では講義内容と関連するウェブサイトのオンラインシラバスへのリンクにより、自主学習を促した。再履修者に対して特別の校時を設けて、少人数教育を行った（助教授）
- ・「微分積分学Ⅰ」「微分積分学演習Ⅰ」の授業評価の結果を、すべてホームページで公開した（助教授）

【物理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ 講義ノートの作成と Web 公開。授業評価アンケートの集計・分析結果は教員のホームページで公開。学科に教育点検委員会を設置し、授業科目毎の学生による授業評価の結果は、各担当教員に通知している。（教授、助教授、講師）
- ・ 教材に最新の成果の取り入れ、実験設備の公開による関心の喚起。（教授、助教授）
- ・ 実験手引書を更新、配布。ホームページによる公開。（教授、助教授、講師）
- ・ 学科ニュースの発行による学習・就職情報の提供及び学問への関心の喚起。（教授）
- ・ 随時レポート、中間試験を課して学生が自ら取り組む時間の確保。（教授、助教授）
- ・ 学生自習室を設け、オフィスアワーを設置する等、学生自主学習への支援。
- ・ 演習科目では、レポートのチェック、注意事項の学生への徹底。（教授、助教授）
- ・ レポートを課し、答案返却の際、TA と共に丁寧な解説を行うなど。（教授）
- ・ 教養教育（主題）科目では、毎回プリントを配布し、自主学習の助けにした。（教授）
- ・ 教養教育主題科目の授業のスライドをホームページ上に公開し、復習の便に供した。（教授）
- ・ 授業中、学生に毎回宿題の解答を提出してもらい、その習熟度を参考に講義の構成を再構築した。（教授）
- ・ 実験授業では、実験結果を学生同士でプレゼンテーションしあうようにしたため、資料集め、結果の理解、発表資料製作に十分時間をかけるようになった。（助教授）
- ・ 主題科目において、特に数式を多く使用する部分等にプリントを配布した。（教授）
- ・ 受講生に対し講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェック。（教授、助教授）
- ・ 講義における学生の発言を促す工夫。（教授）

- ・ 再試験の受験者には、事前の自習を要求している。(教授)
- ・ 大学院生には学外での研究発表を多数実施。(教授、助教授)
- ・ 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善。(教授、助教授、講師)
- ・ 学生に対するアンケートの結果、プレゼンテーション能力の改善を希望する意見が多かったので、大学入門科目 I で学生全員に発表用のスライド (パワーポイント) を提出・発表させることによって課題設定、調査及びプレゼンテーションの能力を高めた。(教授、助教授)
- ・ パワーポイント教材の開発、視覚的に分かりやすい授業の工夫によって効果を実証。(教授)
- ・ 学部専門科目「卒業研究」及び博士前期課程「特別研究」において、学生を共同研究者に入れ、国内外の先端共同利用研究施設での出張実験や学会発表に参加させ、海外での共同実験や学外での研究発表を通して自主学習の意欲を高揚させるよう努めた。学生が国際的に評価の高い学術論文誌に論文発表できるようになった。(教授)
- ・ 定期試験が行われた全科目の定期試験の問題、解答用紙、解答例を学科の資料室に保存している。(教授、助教授、講師)
- ・ 授業評価アンケートの結果、改善の要望が多かった「物理学実験 A」の実験指導書を実験系全教員で新たに作成した。(教授、助教授)

【知能情報システム学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ ブレンディッド型の講義を実施している。(助教授)
- ・ 毎週講義に関する情報をメールで履修生全員に知らせている。(助教授)
- ・ 毎回の授業で学生の意見や質問を聴取し、次回の授業時に回答することで学生とのコミュニケーションに取り組み、授業改善に活用した。また、本方式をオンライン化・電子化し、授業で利用した。(助教授)
- ・ 講義についての質問、疑問を集め、その回答を次回の講義で示した。(教授)
- ・ 研究室において UNIX サーバ管理のための勉強会を院生、教員含めて行った。(助手)
- ・ 教育内容を、学生の学力、高校までの教育課程内容に応じて、微調整している。(教授)
- ・ 小試験問題、演習問題、レポート問題を併せて 100 題ほど出題し、その正解例をコピーして配布した。その結果、学生の計算力の向上が見られた。(教授)
- ・ 毎回、簡単な計算問題をレポートとして課した。その結果、学生の授業内容への理解が深まり、興味をもつようになった。(教授)
- ・ 単元毎の中間試験を実施し、採点結果に基づき、不得意な学習事項を認識させ、当該学習事項に関するレポート課題を提示し、提出レポートを添削することにより不得意学習事項を克服する方法を採った。(教授)
- ・ 授業管理システム LMS の運営管理を行っている。(講師)

- ・演習課題提示、レポート提出、評価結果提示の Web ページを作成し、毎週更新している。また、レポートを毎週チェックし、次週に注意点を提示している。(教授)
- ・講義後に、今日の講義のまとめを書かせている。(教授)

【機能物質化学科】

機能物質化学科では、教育FD委員会より、「学生による授業評価アンケートを基にした授業改善報告書」を前後期分作成して、学科としての授業評価を実施している。教育改善に関する具体例を以下に記載する。

- ・基礎物理学及び演習Ⅱ：教育内容、方法、対応は全般的に高く評価されているにもかかわらず、内容への興味を喚起できていないので、講義中の各項目内容と化学との関係、実生活との関係を例示した。また、視覚的教材を利用して、学生の講義内容への興味を持たせるように改善した。(教授、助教授)
- ・応用有機化学：学生の満足度はほぼ平均であるが、実情は内容を理解できる学生とできない学生との差がありすぎた。よって、大部分の学生が講義内容を理解できるような説明の工夫などを改善した。また、講義中の学生の反応に注意しながら、専門用語の解説に時間をかけて内容の理解を手助けしていくよう改善した。(助教授)
- ・基礎化学Ⅳ：学生が予習・復習をしている時間は少ないことが判ったので、e-Learning などを用いて、授業時間以外の自己学習をより充実させるよう改善した。(教授、助教授)

【機械システム工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・学習支援システムを利用して、毎回の授業における課題をダウンロードさせ、模範解答例をPDFで掲示し、自主学習を促した。(助教授)
- ・JSTのeラーニングコンテンツを利用して自学自習を促し、プレゼンテーションと質疑応答を行なった。(助教授)
- ・毎時間課題を課した。(教授)
- ・各実験後にレポートの提出を課すとともに、その理解度を深めるべくプレゼンテーションを実施し、学生の自主学習を促した。(助手)
- ・演習およびレポートを課して学生の自主学習を促した。(教授)
- ・課題を与え、レポートとして提出させ、評価して返却した。(教授)
- ・課題を与えて、レポートを提出させた。授業の前までに、使用する資料中に記載されている式の導出を行なうように自主学習を促した。(教授)
- ・担当授業科目のWebサイトを作成し、授業の資料、レポートの詳細な解答、試験の解答などを公開し、受講者の自習に必要な情報を提供した。(助教授)
- ・その年の知財高裁の判決をテーマにレポートを課す事により、学生がホットな話題に対して考察するよう配慮している。(助教授)
- ・最新の研究成果を式変形を通して追体験できるように配慮している。(助教授)

- ・ すべての板書記録を配布しており、学生を板書記録から解放している。(助教授)
- ・ 教育顕彰に関する申し合わせを作成し、教育顕彰を実施している。
- ・ 教育改善勧告に関する申し合わせを作成し、教育改善を実施している。

【電気電子工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- ・ シラバス作成の Web 公開と履修学生への直接授業説明 (全教員)
- ・ 学年度ごとに配置した担任教員 (各々の年度で2名ずつ) からの学生の履修指導・相談 (助教授、講師)
- ・ 次年度入学学生については学生をグループ分けして全教員で学生の履修指導・相談に応じることの決定 (全教員)
- ・ プレイメントテストに基づく学力別のクラス編成の実施例 (教授、助教授、講師)
- ・ 基礎学力不足の学生への補習授業例 (助教授)
- ・ 学生の理解度を重視し内容と速度を調節しながらの講義例 (教授)
- ・ インターネット、書籍などでの最新技術情報の収集奨励例 (助教授)
- ・ 技術者倫理、デザイン能力、企業 (社会) が学生 (大学) に求めているものなど科目の中身ととらわれず幅広い視野を身につけるよう学修指導した例 (教授)
- ・ 再試験受験者に対する事前自習要求や補習授業の実施 (教授、助教授、講師)
- ・ 講義科目について、数回～毎回レポートを課し学生の自主学習奨励 (教授、助教授、講師)
- ・ 実験科目についてはテーマに分けた少人数単位の教育 (助教授、講師、助手)
- ・ 実験科目への TA の配置 (助教授、講師、助手)
- ・ 実験科目について、グループ単位での事前調査、個人別の口頭試問などによる理解度向上と自主学習奨励 (助教授、講師、助手)
- ・ 演習科目または講義と演習が一体化した科目の設定と TA の配置 (教授、助教授)
- ・ 演習、試験の模範解答の学生への提示 (教授、助教授、講師)
- ・ レポートおよび定期試験の問題、解答用紙、解答例の保存 (教授、助教授、講師)
- ・ 学生への授業評価アンケート調査の実施 (教授、助教授、講師)
- ・ 大学入門科目、実験に関して学科独自のアンケート調査の実施 (全教員)
- ・ 授業アンケートに基づく問題点の抽出と改善の取り組み (全教員)
- ・ 授業時間外に学部の1～3年次生が自習学習を行える環境の提供 (全教員)
- ・ 卒業研究の実施状況の把握 (全教員)
- ・ 研究活動を授業科目に反映した例 (教授、助教授)
- ・ 大学院生に対する学外での研究発表の義務化 (教授、助教授)
- ・ 日頃よりデータの解釈や修士論文、学会発表等についてきめ細かく指導 (教授、助教授)
- ・ 学生実験、卒業論文、修士論文への技術職員の支援 (技術職員)

【都市工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ・ シラバスに沿って講義。(教授、助教授、講師)
- ・ 毎回出席カードを兼ねて質問票を渡し、次回の講義で解説。(教授、助教授)
- ・ 独自の補足資料・演習問題集を配布し、宿題を課す。(教授、助教授)
- ・ 講義のプリントと演習問題はその授業の前回に配布することにより、予習すなわち自己学習を課す工夫。(教授、助教授)
- ・ 毎回復習を兼ねて授業の内容に関する課題を与えてレポートとして提出させる。(教授、助教授)
- ・ 視聴覚題材を多用した講義。内容的には研究した生データを多く使用し、学習への動機付けを工夫。(教授、助教授)
- ・ 自作プリント(重要事項を白抜き)をHPに掲載し、予習・復習に随時使用できるようにする。毎週小テストを実施。(教授、助教授)
- ・ 優れたデザイン事例や文献等をその都度紹介し、学生が自己学習するよう促す。(教授、助教授)
- ・ 現地見学等を行い理解度を高める。(教授)

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ 理工学部FD企画 e-Learning 講習会(助教授)

【物理科学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ 高等教育センターFDフォーラム(教授)
- ・ 理工学部FD報告会(教授、助教授)
- ・ 佐賀県理科教育研究大会での講演(教授)

【知能情報システム学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ 理工学部FD報告会(教授、助教授)
- ・ eラーニングシンポジウム(助教授)
- ・ 数学教育の会(助教授)
- ・ JABEEシンポジウム(助教授)
- ・ 大学改革プログラム合同フォーラム(教授)
- ・ FD・SDフォーラム(教授)

【機能物質化学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・理工学部 FD 報告会（教授、助教授）
- ・全国大学化学系教育研究集会（教授）
- ・JABEE シンポジウム（助教授）
- ・教育力向上セミナー（助教授）
- ・佐賀大学 FD・SD フォーラム（教授、助教授）

【機械システム工学科】

学科内での FD 活動の他、

- ・第1回 FD・SD フォーラム（教授）
- ・第2回 FD・SD フォーラム（教授、助教授）
- ・JABEE 認定システムに関する地区別シンポジウム（助教授）
- ・第1回ワークショップ「エンジニアリング・デザインの指導法」（助教授）

【電気電子工学科】

理工学部機能物質化学科の JABEE 実地審査についてオブザーバー参加（教授）

- ・大学電気教員協議会及び大学電気工学教育研究集会（教授、助教授）
- ・電子情報通信学会 JABEE シンポジウム、自主研修会（教授、助教授）
- ・電気学会 JABEE シンポジウム、自主研修会（講師）
- ・電気電子工学科教育改善委員会（教授、助教授）
- ・電気電子工学科カリキュラム検討委員会（教授、助教授、講師）
- ・電気電子工学科 JABEE 委員会（教授、助教授）
- ・電気電子工学科学生実験委員会（助教授、講師、助手）
- ・レポートまたは定期試験の問題、解答用紙、解答例の全員保管

【都市工学科】

学科に教育システム検討委員会を設置し適宜(年 6 回ほど)議論している。また、学科内での FD 活動の外、以下のような講演会等への参加者のべ人数は9名を数える。

- ・理工学部 FD 報告会（教授）
- ・FD、SD フォーラムでの講演、参加（教授）
- ・全学教育部会での議論（教授、助教授）
- ・教養教育協議会での議論（教授）

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

- ・教授、助教授、講師の学科スタッフ全員が勉強や進路に関する相談を受けた。

【物理科学科】

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。

- ・質問の内容で主なものは、進路の相談、担当授業科目への質問・応答、大学院への進学に

関する相談等である。

- ・実際の質問は、オフィスアワー以外がかなりのぼった。

【知能情報システム学科】

- ・オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。学生からの相談内容は学修相談や進路相談に関するものが多い。

【機能物質化学科】

- ・相談内容は、授業内容に関する質問や成績に関するものが多い。(教授、助教授、助手)
- ・平成 17 年度の入学者から、各教員に平均 4 名の学生を対象としてチューターを指定し、学修相談や生活相談に応じている。特に、履修上問題のある学生についてはチューターが呼び出して事情を聴き、アドバイスするようにしている。(教授、助教授、助手)

【機械システム工学科】

- ・相談は学修相談 (308 回)、生活相談 (42 回)、進路相談 (33 回) その他 (1 回) で、学修に関するものが多い。

【電気電子工学科】

- ・相談内容の内訳は学修相談 540 件、生活相談 38 件、進路相談 218 件、その他 415 件となっており、大半は一般学生である。
- ・オフィスアワーを活用した面談は 161 件と少なく、大半はオフィスアワー以外での面談であるが、電子メールによる対応も 38 件ある。

【都市工学科】

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。

- ・相談内容は 学習、進路に関するものが多く、続いて生活に関するものである。

3.1.5. 学生の受賞等

【機能物質化学科】

- ・第 43 回化学関連支部合同大会ポスター賞 (指導教員：助教授)
- ・九州分析化学若手賞 (指導教員：助教授)
- ・43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting、 Student Poster Award (指導教員：助教授)

【機械システム工学科】

- ・日本機械学会九州学生会第 38 回卒業研究発表講演会優秀発表賞 (指導教員：教授)
- ・日本機械学会九州学生会第 38 回卒業研究発表講演会優秀発表賞 (指導教員：助教授)

【電気電子工学科】

- ・映像情報メディア学会放送技術研究会学生発表部門 優秀賞受賞 (指導教員：教授)
- ・電子情報通信学会九州支部学術奨励賞 (指導教員：助教授)
- ・電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞 (指導教員：教授)
- ・電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞 (指導教員：教授、助教授)
- ・電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞 (指導教員：助教授)

【都市工学科】

- ・地盤工学会九州支部優良学生賞 2名（指導教員：教授、教授）
- ・日本建築学会九州支部長賞 1名（指導教員：教授）
- ・土木学会西部支部優秀講演賞 3名（指導教員：教授、講師）
- ・日本コンクリート工学協会九州支部長賞 1名（指導教員：教授）
- ・日本都市計画学会九州支部長賞 1名（指導教員：教授・助教授）
- ・都市住宅学会九州支部優秀学生賞 1名（指導教員：助教授）
- ・環境工学研究フォーラム論文賞 2名（指導教員：教授・助教授）

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書、論文等の発表実績

過去5年間（H13.4.1～H18.3.31）の発著書、論文等の発表実績を表3.2に示す。

表3.2 過去5年間（H13.4.1～H18.3.31）の著書、論文等の発表実績

学 科	職 種	著 書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学科	教 授	0-2	1-16	1-15	0	0	1-16	1-16
	助教授	0	3-7	3-6	0	0	3-7	3-6
物理科学科	教 授	0	2-109	2-109	0-5	0-1	3-109	2-109
	助教授 (講師含)	0-1	0-51	0-51	0-1	0	1-51	0-51
知能情報 システム学科	教 授	0-3	2-73	2-73	0- 25	0-25	2-48	2-48
	助教授 (講師含)	0-6	2-12	2-12	0-5	0-5	2-7	2-7
	助 手	0	0-7	0-7	0-2	0-2	0-5	0-5
機能物質化学科	教 授	0-6	10-58	10-52	0-11	0-11	0-52	0-52
	助教授	0-2	6-33	6-33	0-6	0-6	3-33	3-33
	助 手	0-2	1-26	1-26	0-6	0-6	1-21	1-21
機械システム 工学科	教 授	0-7	7-87	7-50	0-20	0-20	2-76	1-76
	助教授 (講師含)	0-2	4-42	4-42	1-20	1-11	3-38	1-38
	助 手	0	6-22	6-22	1-4	0-4	2-18	2-18
電気電子工学科	教 授	0-4	14-94	14-87	1-30	1-28	2-73	2-73
	助教授 (講師含)	0-7	2-80	2-80	1-12	1-12	0-79	0-79
	助 手	0	12-21	4-21	2-6	2-6	10-15	10-15
都市工学科	教 授	0-2	0-65	0-34	0-23	0-17	0-47	0-47
	助教授 (講師含)	0-6	2-30	2-30	1-17	1-14	0-29	0-29
	助 手	0-2	2-22	2-22	4-9	2-9	0-13	0-13

表中、例えば、(0-2)は実績の（最小数－最大数）を表す。

【数理科学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが分かる。

【物理科学科】殆どの論文はユニバーサルな基準に基づく国際的な学術論文誌にて公表され、本表より多くの教員が活発な研究活動を行っていることが窺い知れる。論文件数が多い上位2

名の教員においては主に規模の大きいプロジェクト組織で研究が遂行されるという専門分野の性格も反映されている。また、講師陣は佐賀大学に着任後の論文のみを統計している「それぞれ3年目、3年目、初年度にあたる」。

【知能情報システム学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れるが、助手の一層の研究活動が望まれる。

【機能物質化学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【機械システム工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【電気電子工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【都市工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- ・清華大学（中国）等との共同研究（教授）
- ・北京工業大学（中国）との共同研究（教授）

【物理科学科】

- ・BファクトリーBelle 共同実験（教授・助教授）
- ・国際会議・シンポジウムでの講演・発表（教授・助教授）

【知能情報システム学科】

- ・産業技術総合研究所との共同研究（教授、助教授）
- ・(株)佐賀 IDC との共同研究（教授）
- ・(株)IT インペルとの共同研究（教授）
- ・三菱総合研究所との共同研究（教授）

【機能物質化学科】

- ・各種産業廃棄物からの有価金属の回収技術の開発（教授）
- ・各種有価物からの貴金属の回収技術の開発（教授）
- ・新しいホウ素、炭素、窒素系二次元薄膜の合成と構造解析（教授）
- ・熔融塩法による PZT 球状微粒子の合成とキャラクタリゼーション（教授）
- ・有機発光ダイオード用の燐光材料の開発（教授）
- ・海苔の酸処理剤に関する研究（教授）
- ・焼却灰の重金属安定剤に関する研究（教授）
- ・バイオ処理農産廃棄物を用いたハニカム状多孔体（教授）
- ・佐賀県有知的財産の維持管理および品質管理（教授）
- ・廃棄物スラグを用いた吸音板の開発（教授）
- ・新規リチウムイオン伝導高分子用リチウムイオン電池正極材料の開発（教授）
- ・ナノ複合体を利用するハイレート対応新型リチウムイオン電池の要素技術の開発（教授）
- ・高性能オリビン系リチウムイオン電池正極材料の開発（教授）
- ・有機酸溶液 {J's Acid} に関する研究、開発（教授）

- ・メタン発酵多孔質担体の開発（助教授）
- ・機能性カルボキシラト錯体の開発（助教授）
- ・有機光センサーに関する基礎研究開発（助教授）
- ・天然物を有効活用した難分離性長寿命核種の分離技術の研究開発（助教授）
- ・カリックスアレーンによるガス貯蔵技術の研究開発（助教授）
- ・有機光機能材料の創製とその応用に関する研究（助教授）
- ・光スイッチを持った一次元超分子ポリマーの開発と応用（助教授）
- ・燃料電池自動車等用リチウム電池技術開発/高性能リチウム電池要素技術開発/ナノ複合体を利用するハイレート対応新型リチウムイオン電池の要素技術の開発（助教授）
- ・抗菌性人工関節開発に関する研究（助教授）
- ・触媒基材に供する酸化物ナノ材料の開発（助教授）
- ・セラミックスナノ構造体の水素吸蔵特性の調査（助教授）
- ・インテグリン機能調節を介したがん細胞のプログラム細胞死誘導（助教授）
- ・レセプター会合を調節する膜貫通ペプチドの光架橋（助教授）
- ・ポルフィラン（POR）を核とした保健機能食品素材の開発、低分子成分の特徴を活かした高機能性食品素材の開発（助教授）

【機械システム工学科】

- ・転がり軸受の玉の自転滑り発生条件に関する研究（教授）
- ・宇宙用基油・グリースの潤滑性能評価（教授）
- ・自動車用マグネシウム合金の変形・破壊メカニズムの解明（教授）
- ・Post-CO₂冷媒を用いたヒートポンプサイクルに関する基礎的研究（教授）
- ・細径内面溝付管の管内熱伝達特性および分流技術に関する研究（教授）
- ・CO₂冷媒を使用した冷媒・冷蔵の基礎研究（教授）
- ・アルミナセラミックス人工骨頭への磁性流体研削加工の応用に関する研究（助教授）
- ・自動車用ボルトの疲労特性評価に関する研究（教授）
- ・スラグを用いた吸音材の開発（教授）
- ・バレル研磨による歯面仕上げの研究（助教授）
- ・内歯車研削用球形ネジ状砥石の設計計算（助教授）
- ・低比速度斜流送風機の開発（教授）
- ・潤滑油基油の高圧密度測定評価研究（教授）
- ・超磁歪デバイスの基礎特性（助教授）
- ・極低浮上磁気ヘッドに関する理論的研究（助教授）
- ・e-ラーニングによる人材育成支援モデル事業（助教授）
- ・水素吸蔵合金と超高压容器を組み合わせたハイブリッド貯蔵タンクの研究開発（教授）

【電気電子工学科】

- ・佐賀県工業技術センターとの共同研究（教授）
- ・核融合研研究所との共同研究（教授）

- ・東北大学との共同研究
- ・宇宙科学研究本部との共同研究（講師）
- ・電装研との共同研究（講師）
- ・大阪大学接合科学研究所との共同研究（講師）
- ・国立極地研究所との共同研究（講師）
- ・企業との共同研究 12 件（教授、助教授、講師）
- ・東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究「知的ナノ集積システムの実現に関する研究」（助教授）
- ・インテグレイテッド・エレクトロニクス教育研究プロジェクト（佐賀大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）（教授、助教授、助手）
- ・連携融合事業（佐賀大学シンクロトン光応用研究センター）（教授、助教授）
- ・企業への情報提供 3 件（教授、助教授、講師）
- ・企業等への研究指導 5 件（教授、助教授、講師）
- ・その他

【都市工学科】

- ・佐賀大学有明海総合研究プロジェクト（教授、助教授）
- ・国土交通省九州整備局からの有明海沿岸道路に関する受託研究（教授）
- ・鹿島市肥前浜草葺き民家保存に関する研究（助教授）
- ・学内 COE：無害化焼却灰の建設材料化に関する研究（教授、助手）
- ・その他

3.2.3. 受賞等の実績

【数理科学科】

- ・中国科学院数学与系統科学研究院より 2006 年度突出科研成果賞（教授）

【知能情報システム学科】

- ・JICA 九州国際センター所長表彰（教授）
- ・学修研究社賞（教授）
- ・インドネシア国民教育省高等教育総局局長表彰（教授）
- ・JGN2 利用促進賞（地域貢献推進賞）（教授）
- ・国立大学法人佐賀大学発明賞（教授）
- ・永年貢献感謝状（教授）
- ・総務省九州総合通信局局長表彰「電波の日表彰」（教授）
- ・情報処理学会優秀教育賞（助教授）

【機能物質化学科】

- ・日本イオン交換学会より日本イオン交換学会進歩賞（助教授）
- ・土木学会より新技術プロジェクト賞（教授、助教授）

【機械システム工学科】

- ・耐火物技術協会若林賞（論文賞）（教授）

【電気電子工学科】

- ・エレクトロニクス実装学会「論文賞」(助教授)
- ・財団法人エンジニアリング振興協会「エンジニアリング功労者賞」(助教授)

【都市工学科】

- ・土木学会より学術講演会優秀講演者賞 (助手)

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理科学科】

- ・理工学部国際パートナーシップ講師（教授）
- ・韓国数学会年会、清華大学での招待講演、中国人・韓国人研究者の受入れ（教授）
- ・北京工業大学での招待講演（教授）
- ・慶北大學校（韓国）、コハート科学技術大学（パキスタン）との学術交流締結（教授）
- ・国内外の国際研究集会への参加、講演（教授、助教授）

【物理科学科】

- ・佐賀大学理工学部国際パートナーシップによる、韓国延世大学とのジョイントセミナーを企画・実施（教授・助教授）。

【知能情報システム学科】

- ・理工学部国際パートナーシップ講師（教授）
- ・JICA 短期派遣専門家（教授、助教授）

【機能物質化学科】

- ・外国人研究者の訪問と講演会開催（教授）
- ・国際会議にて研究交流（教授、助教授）
- ・韓国培材大学訪問と研究交流（教授）
- ・第1回佐賀大学・培材大学校環黄海次世代産業研修プログラム開催（教授）
- ・中国科学技術院訪問と研究交流（助教授）
- ・第4回佐賀大学と釜山大学との化学ジョイントシンポジウム開催と参加（教授、助教授、助手）

【機械システム工学科】

- ・理工学部国際パートナーシップ講師（教授2名）
- ・外国人訪問者：教授2名（大韓民国）
- ・中国での国際会議出席（教授8回、助教授1回、講師1回、助手1回）
- ・韓国での国際会議出席（教授1回）
- ・タイでの国際会議出席（教授1回）
- ・オーストラリアでの国際会議出席（教授1回、講師1回）
- ・米国での国際会議出席（教授6回、助手1回）
- ・英国での国際会議出席（教授2回）
- ・ドイツでの国際会議出席（教授1回）
- ・ポーランドでの国際会議出席（教授1回）
- ・ポルトガルでの国際会議出席（教授1回）
- ・オーストリアでの国際会議出席（教授1回）
- ・国内での国際会議出席（教授2回、助教授2回、助手1回）

【電気電子工学科】

- ・ 国際会議の参加、発表（教授、助教授、講師、助手）
- ・ 理工学部国際パートナーシップ（教授、助教授、講師）
- ・ 外国大学との交流セミナー・共同研究（教授、助教授）

【都市工学科】

- ・ パートナーシッププログラムに基づき、浙江大学で 2006 年 10 月 11～14 日の期間、浙江大学にて土木あるいは建築を専攻する大学院生と、帯同した佐賀大学都市工学専攻の大学院生に講義を実施（教授、助教授）
- ・ 同上において浙江大学の構造関係のスタッフとの教育研究交流（教授、助教授）
- ・ 低平地に関する国際シンポジウム（ISLT06）開催、佐賀大学、2006 年 9 月 14 日～16 日（教授、助教授）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理科学科】

- ・ 科学研究費審査員（教授）
- ・ 学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授、助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など（教授、助教授）

【物理科学科】

- ・ 学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 学会研究会座長幹事（教授・助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ オープンキャンパスにおける演示実験（教授・助教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 各種学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 各種学会論文誌編集委員（教授、助教授）
- ・ 各種学会研究会幹事など（教授、助教授、助手）
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など（教授、助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など（教授、助教授）
- ・ 佐賀大学公開講座講師（助手）
- ・ ユビキタス研究会講師（助教授）
- ・ JABEE 自主研修会（情報および情報関連分野）（助教授）
- ・ 全国豊かな海づくり大会講師（教授、助手）
- ・ 佐賀県高度情報化推進協議会インターネットセキュリティ講座（助手）

- ・九州航空宇宙開発推進協議会講師（教授）
- ・日本情報処理開発機構講師（教授）
- ・佐賀大学医学部主催モビリティシンポジウム 2007 講師（教授）
- ・佐賀県経済同友会主催講演会講師（教授）
- ・総務省主催、統合型 GIS 自治体連絡会議委員（教授）
- ・地域調査 GIS ワークショップ講師（教授）

【機能物質化学科】

- ・学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・学会研究会幹事（教授、助教授）
- ・佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など（教授、助教授）
- ・ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・学会研究会研修会開催の実行委員、運営委員など（助教授）
- ・青少年のための科学の祭典全国大会講師（教授、助教授）
- ・さが科学少年団 副団長（助教授）

【機械システム工学科】

- ・学会理事（教授 1 件）
- ・学会評議員（教授 3 件、助教授 1 件）
- ・学会校閲委員、編集委員、運営委員など（教授 1 4 件、助教授 1 件）
- ・学会九州支部理事、評議員、商議員、常議員など（教授 5 件、助教授 2 件）
- ・研究会会長、幹事など（教授 4 件）
- ・学会開催の実行委員、運営委員など（教授 4 件、助教授 2 件、助手 3 件）
- ・ジョイントセミナー（教授 7 回）
- ・出前授業（教授 2 回、助教授 1 回）

【電気電子工学科】

- ・学協会本部・支部各種役員（教授、助教授）
- ・学会論文委員、査読委員（教授、助教授、講師）
- ・諸団体・研究機構アドバイザー、評価委員（教授）
- ・学会各種委員会、研究会、専門委員会、委員長・幹事、オーガナイザー（教授、助教授、講師）
- ・佐賀県関連の協議会等の幹事、各種委員など（教授、助教授）
- ・学会開催の各種委員長、委員など（教授、助教授）
- ・ジョイントセミナー講師（教授、助教授、講師、助手）
- ・サイエンスパートナーシッププログラム（助教授）
- ・リフレッシュ理科教室（教授、助教授、助手）
- ・人工知能工学シンポジウム（助教授）
- ・出前授業（助手）
- ・青少年のための科学の祭典（助手）

- ・公開講座「パレート型学習を行う自己組織化マップとそのセキュリティ分野への応用」(助教授)
- ・公開講座「人工頭脳工学研究会／2006 年前期編」(助教授、助手)
- ・公開講座「大学等開放推進事業一宇宙を学ぶ」(講師)
- ・研修会「理科実験研修」(助教授)
- ・研修会「電波研連C分科会公開研究会」(講師)
- ・研修会「技術情報協会セミナー」(助教授)
- ・研修会「日本知能情報ファジィ学会九州支部ほっと暖まる合同研究会 2006」(助教授)
- ・研修会「NPO 法人技術交流フォーラム主催「平成 18 年度技術懇話会」」(助教授)
- ・研修会「EMAC (Emotion and Machine Learning)グループ 2006 年度定例セミナー」(教授)
- ・研修会「JST 新技術説明会」(教授)
- ・研修会「IT 高度ソフトウェア教室」(助教授)
- ・研修会「エレクトロニクスものづくり体験教室」(助教授)
- ・研修会「Linux インストールセミナー」(教授)
- ・研修会「理科実験研修」(助教授)
- ・その他

【都市工学科】

- ・市民向け講演会講師、パネリスト (教授、助教授)
- ・技術者向け講習会の講師 (教授、助教授)
- ・ジョイントセミナー (教授、助教授)
- ・学会の各種委員 (教授、助教授)
- ・佐賀県の各自治体の各種委員 (教授、助教授)
- ・学会論文査読委員 (教授、助教授)
- ・学会論文誌編集委員 (教授、助教授)

3.4. 組織運営の領域

【数理科学科】

- ・理工学部各種委員の担当（教授、助教授）
- ・高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、助教授）

【物理科学科】

- ・運営企画会議委員（教授）
- ・全学各種委員会（教授・助教授）
- ・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・学科内の各種委員、係（全教員）
- ・高等学校への出前講義（全教員）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- ・特にある教員は委員長を含む全学各種委員会の委員を13役も引き受け、大学全体の組織運営に多大な貢献をしている。

【知能情報システム学科】

- ・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、助教授、助手）

【機能物質化学科】

- ・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・学科各種委員会員の担当（全教員）
- ・高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【機械システム工学科】

- ・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、助教授、講師、助手）
- ・美化デーなどの活動に積極的に参加（教授、助教授、講師、助手）

【電気電子工学科】

- ・全学または理工学部、学科内各種委員（全教員）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学科】

- ・理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（助教授、助手）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授、助教授、講師、助手について整理したものが下記の表 4. 1 である。

表 4. 1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

学 科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢 献の領域		組織運営の領域		総合 評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学科	教授	3-5	54-100	2-5	10-100	3-5	58-90	2-5	50-95	3-5
	助教授	3-4	75-80	3-5	60-100	1-3	0-65	3-5	70-90	2-4
物理科学科	教授	3-4	50-80	3-5	55-100	3-4	50-90	3-4	70-100	3-4
	助教授 講師含	2-4	61-90	3-4	68-90	2-4	55-90	2-5	60-95	2-4
知能情報 システム学科	教授	4-5	95-100	4-5	80-100	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5
	助教授 講師含	4-5	90-100	3-4	70-100	3-4	60-100	4-5	75-100	3-4
	助手	3-4	80-90	3-5	50-100	3-4	40-80	3-5	90-100	3-4
機能物質化学科	教授	4	70-100	4	70-100	3-4	40-90	3-4	60-100	4
	助教授	3-5	70-100	3-4	70-100	3-4	50-95	3-5	50-100	3-4
	助手	3-4	70-90	2-4	40-85	3	50-75	3-4	70-90	3-4
機械システム工学科	教授	3-4	60-95	3-5	70-100	3-4	70-90	3-5	70-100	3-4
	助教授 講師含	4-5	80-100	2-5	30-100	3-4	40-90	4	80-90	2-4
	助手	3-5	70-95	3-5	70-95	3	50-70	3-4	70-100	3-4
電気電子工学科	教授	3-5	70-100	3-5	60-100	2-5	40-100	1-5	20-100	3-5
	助教授 講師含	3-5	60-100	1-5	5-100	1-5	0-100	2-5	40-100	1-5
	助手	3-4	75-80	3-4	60-90	3-4	70-80	2-4	50-80	3
都市工学科	教授	3-4	70-90	3-5	60-95	2-5	30-90	3-5	70-90	3-4
	助教授 講師含	3-4	70-90	3-4	50-95	1-5	30-95	2-4	50-80	2-4
	助手	3	80-90	3-4	80-90	3	70-80	2-3	50-90	3

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数-最大数）を表す。

教員各自が評価した総合評価点ならびに達成率の一覧を表 4. 1 に示す。

【数理科学科】

各教員がそれぞれの価値基準に影響された評価を行っており、評価の客観性が乏しいと考えられる。

【物理科学科】

教授は職分の性格から比較的組織運営により多く貢献し、また、授業も 1 科目多く担当している。教授・助教授・講師は職分の別なく 90%以上が教育と研究を頑張っている。

【知能情報システム学科】

本表および各教員から提出された個々人に関する詳細な報告書（非公開）からは、各教員はそれぞれの職分、事情を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。しかし、「6. 教員個人評価に関する評価実施委員からの意見」に述べるように、助手の自己評価点が教授、助教授のそれに比べて総じて低いことが課題である。

【機能物質化学科】

教育の領域に関しては、JABEE 認定のための教育プログラムを全教員が着実に実施したという達成感があったと考えられ、ほとんどの教員は優れていると評価している。研究および組織運営の領域も、大講座制であるが、教員は日々努力し、組織運営に貢献し、かつ研究成果を挙げていると判断され、多くの教員は優れていると評価している。国際交流・社会貢献は対外的に対応し易い教授・助教授が中心となるため、幅のある評価結果であったが、各教員は協力できる態勢にあり、サポートしている状況が多い。以上の点から、各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

【機械システム工学科】

各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

【電気電子工学科】

各教員は概ねそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

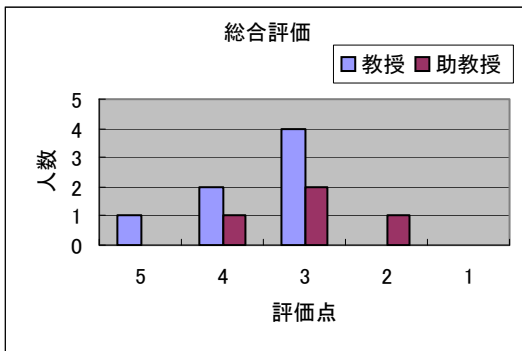
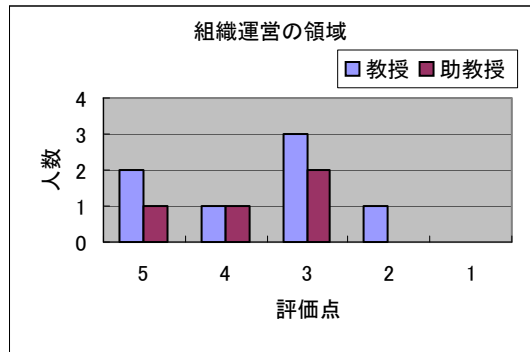
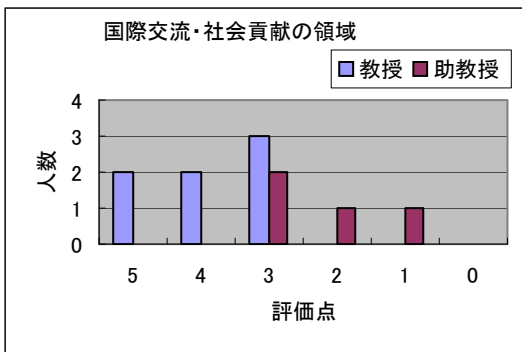
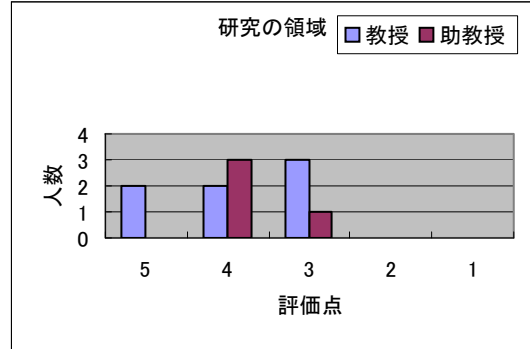
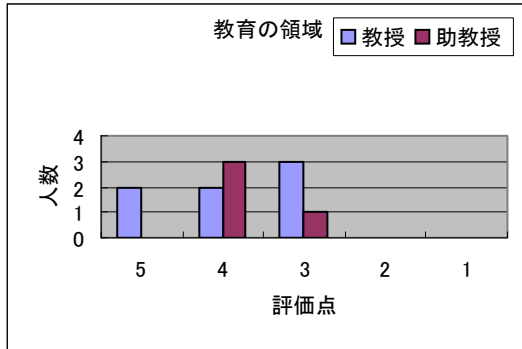
【都市工学科】

各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

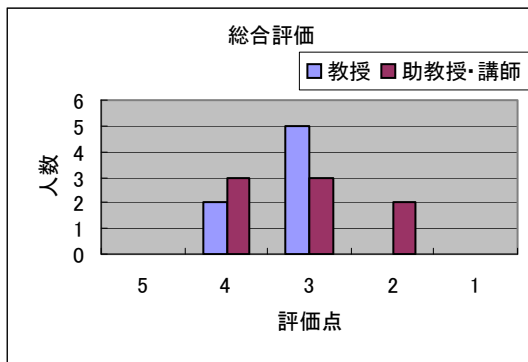
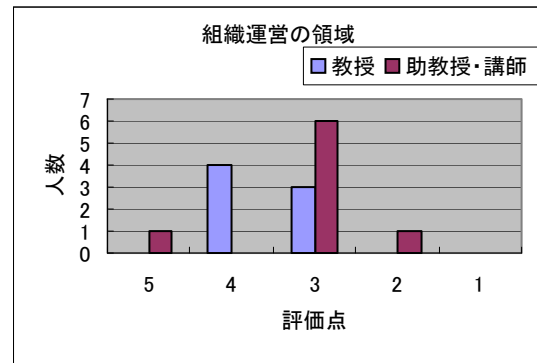
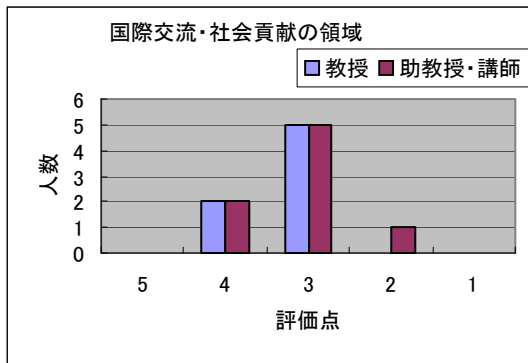
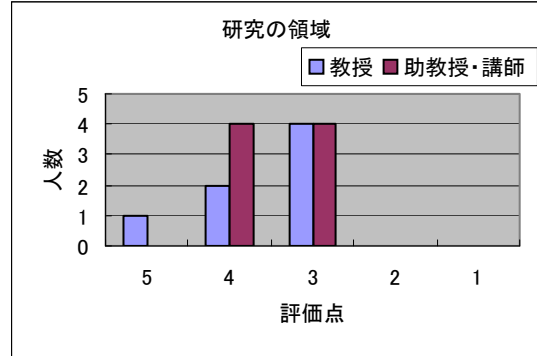
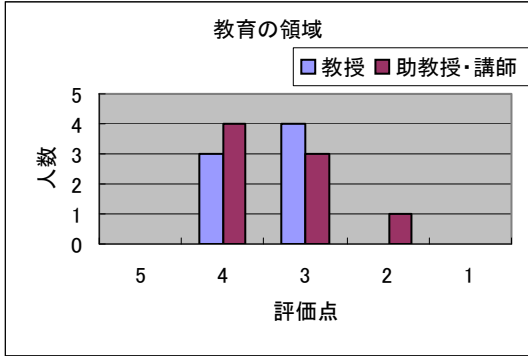
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。

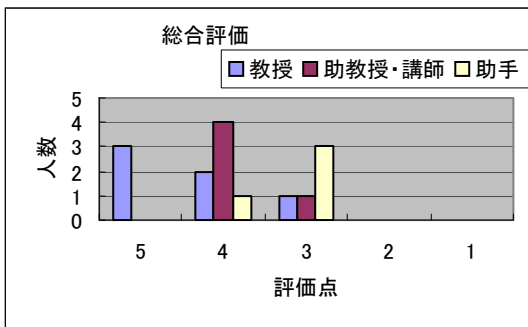
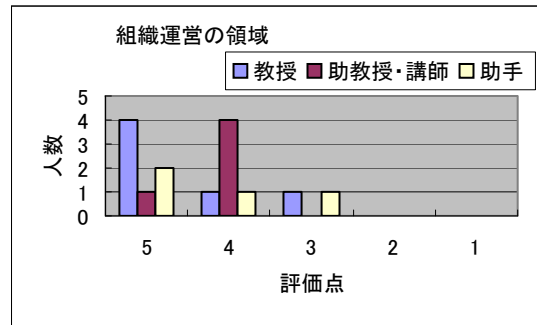
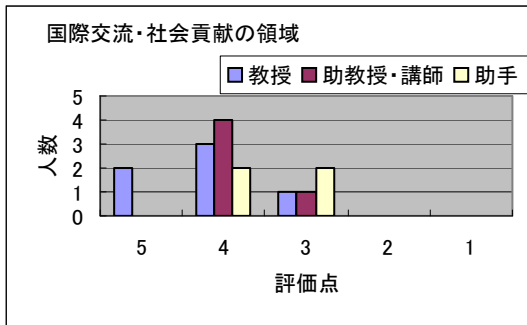
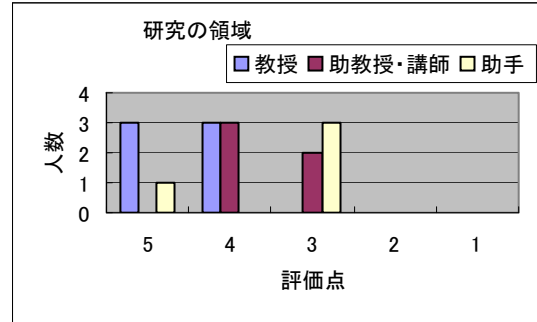
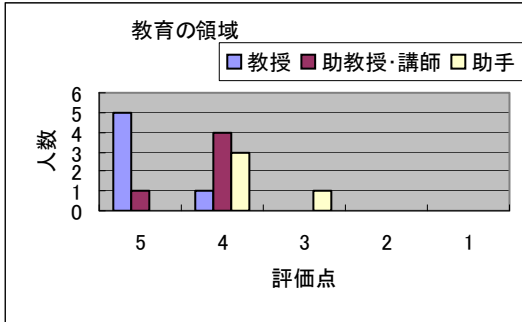
【数理科学科】



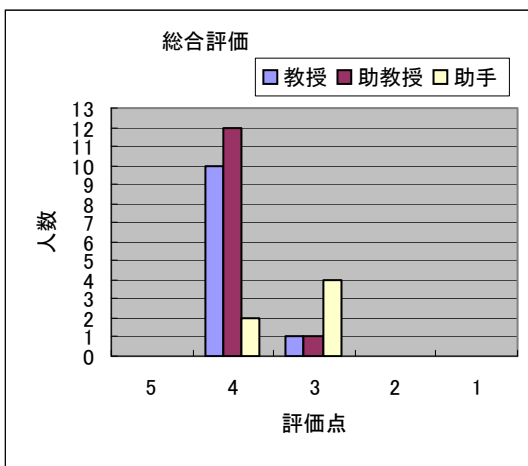
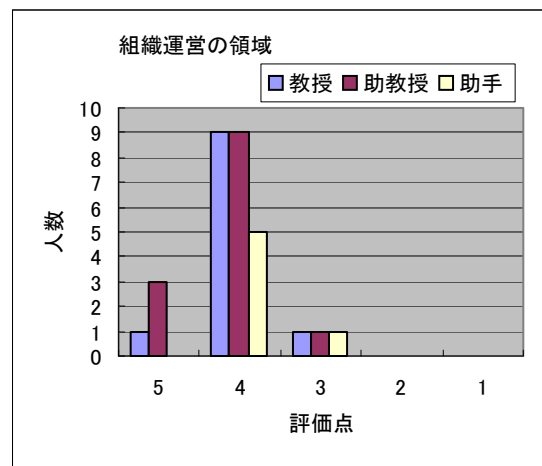
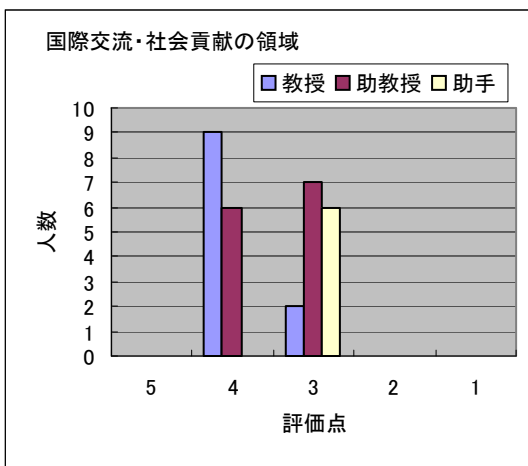
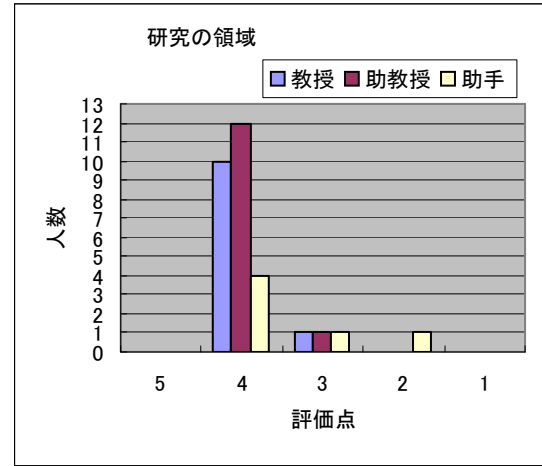
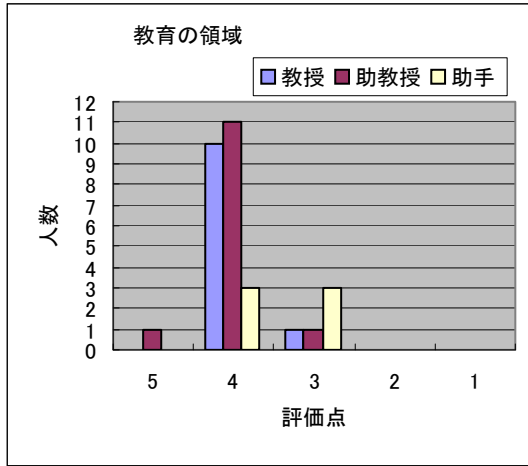
【物理科学科】



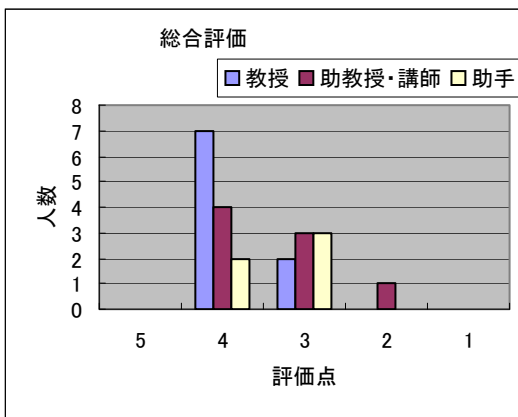
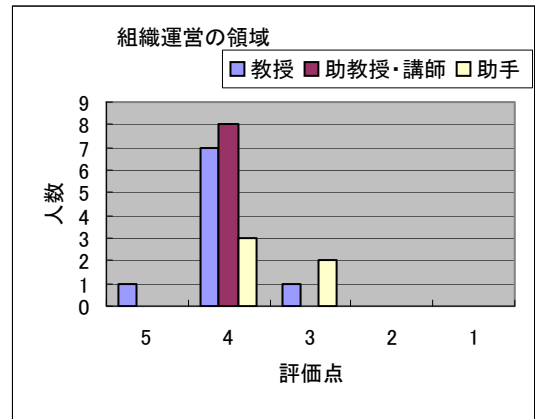
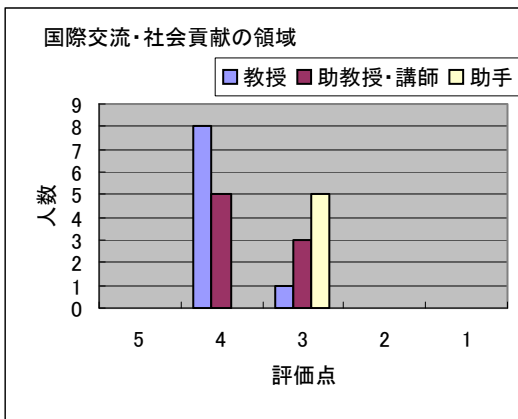
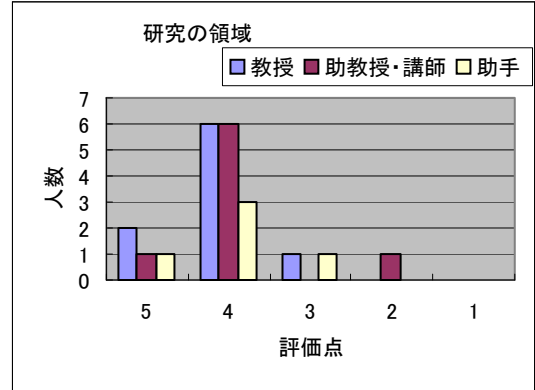
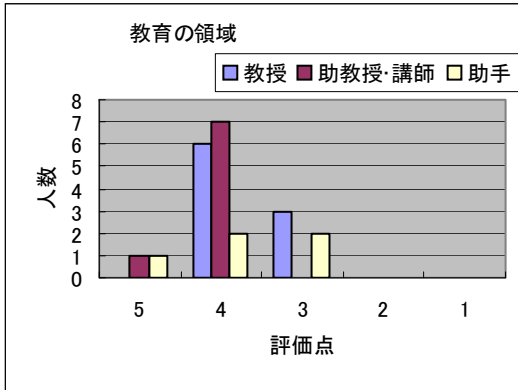
【知能情報システム学科】



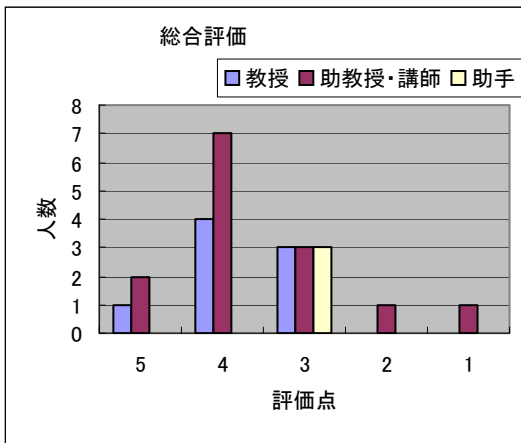
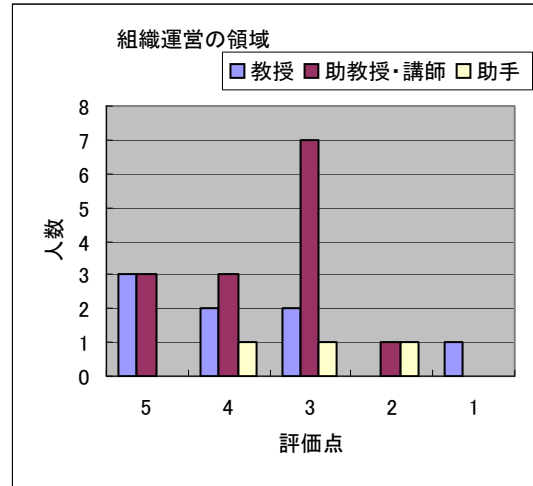
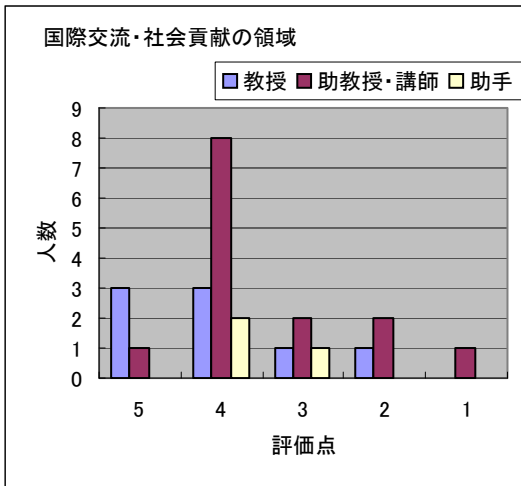
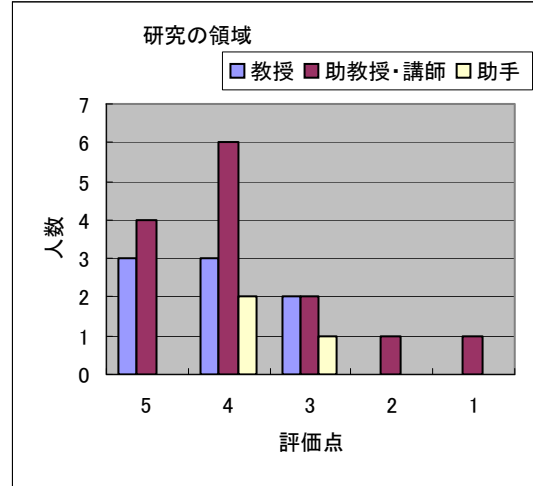
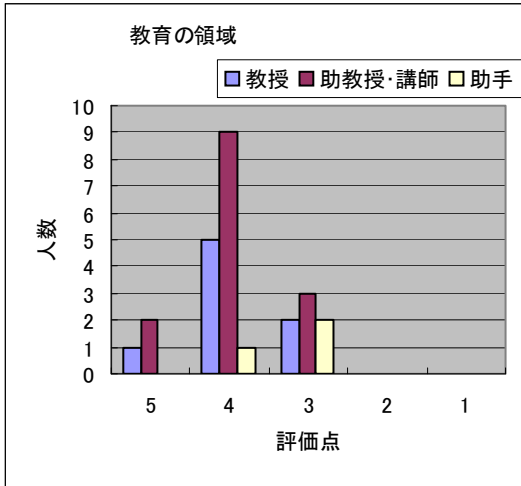
【機能物質化学科】



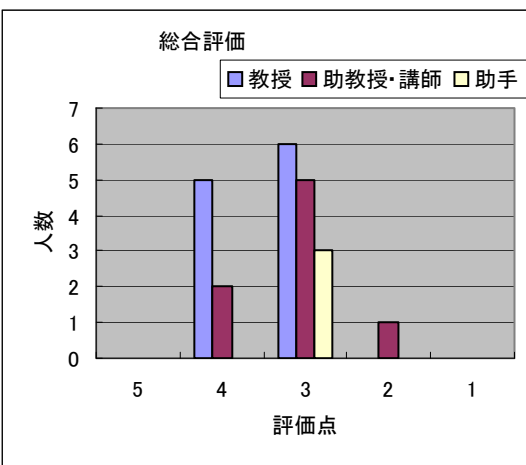
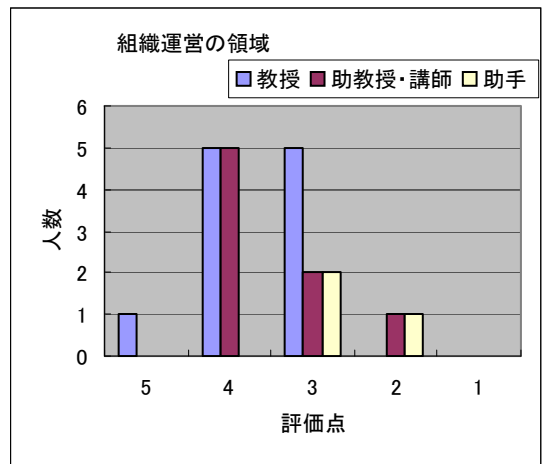
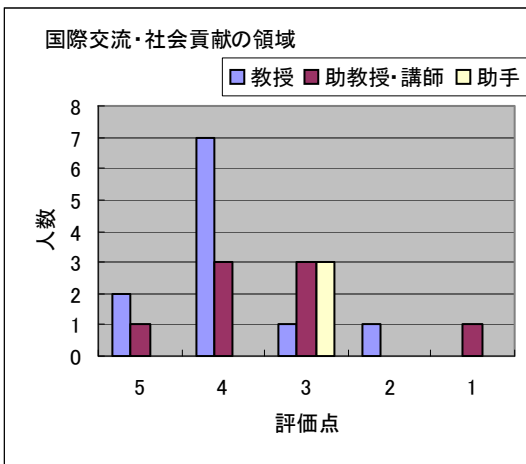
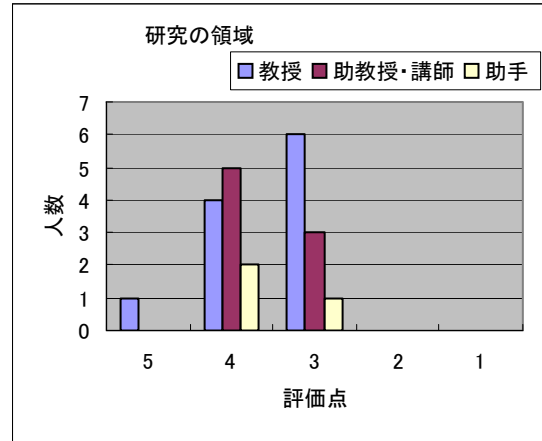
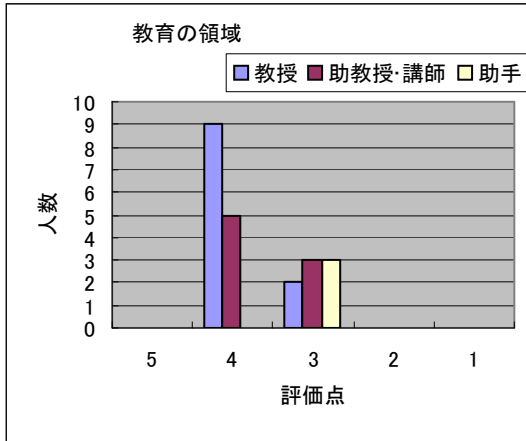
【機械システム工学科】



【電気電子工学科】



【都市工学科】



4.3. 評価委員からのコメント

評価委員のコメントを以下にまとめる。

【数理科学科】

- (1) 平成18年度評価は平成17年度学科長が行うことになったことから、委員としては平成17年度報告書で述べた意見と変わらない。
- (2) 学科からは、特に19年度の評価に際しては自己点検評価書（様式3）の評価点と達成率の記載方法等について改善されることを強く望む意見がだされている。

【物理科学科】

- (1) 活動実績報告書に関しては、各教員の真摯な対応により、教員の広範な活動状況が報告され、学科の教育、研究、国際・社会貢献、組織運営等における活動が詳細に分かるようになった。また、新規採用された若手教員が活発に研究・教育を行っており、学科の活性化に寄与している。
- (2) 平成17年度に比べ、教員の自己評価はより客観的になっている。

【知能情報システム学科】

- (1) 表3.1に示される教授間の教育負担の格差は、平成18年度に担当科目見直したため、平成19年度から緩和されるものと予想している。
- (2) 「平成17年度 教員個人評価 集計と分析」においても指摘されているが、依然として助手の研究活動がやや低調であることに気付く（表3.2）。そのことは助手ら自らが自覚しているようである（表4.1）。それと対照的に表4.1の教授の自己評価は総じて高い。個々に様々な事情があり、一様には扱えないだろうが、助手の低調な活動を打開するには教授、助教授が組織的支援を検討すべきではないだろうか。

【機能物質化学科】

- (1) 機能物質化学科では、教員個人がそれぞれ発揮できる領域において優れた成果を挙げており、全体的に見て各領域において大きな貢献をしていると判断できる。教育においては、学部教育においては「機能材料化学コース」がJABEE認定され、教育の高い評価を受けた。大学院の学生の指導も充実しており、特に博士後期課程のエネルギー物質科学専攻定員（ $9 \times 3 = 27$ 名）に近い22名の学生を指導している。研究においても、科研費以外の外部資金の獲得にも大きく貢献している。また、エコアクション等の安全管理にも機能物質化学科は大きく貢献していると考える。
- (2) 機能物質化学科は、教育、研究を含め各領域に大きく貢献しているが、退職及び転出教員のポストの補充がなされず、現在、人員不足による教育等の実施に支障が出てきているので、早く改善されることが望まれる。

【機械システム工学科】

- (1) 機械システム工学科の教育プログラムは平成18年5月8日に日本技術者教育認定機構より「頭書の技術者教育プログラムは審査の結果JABEE認定基準に適合していることを認定します。認定開始年度2005年度」され、認定証が授与された。今年度の機

械システム工学科卒業生92名中88名がJABEE認定教育プログラムを修了した。教員各位の教育・研究への並々ならぬ努力が結実したものであり、本年度の資料からも窺い知れる。

【電気電子工学科】

- (1) 各領域について学科独自の目標を掲げ、概ね達成されている。
- (2) 教育改善、社会貢献実績などについて内容が豊富となっている。
- (3) 各人による評価基準の理解が統一されていないために、この結果を利用した相対評価は困難であった。また、総合評価を低く自己評価した例が幾つかあった。

【都市工学科】

- (1) おおむね、全教員まじめに教育、研究、国際交流・謝意貢献・組織運営の取り組んでいる。特に教育には熱心である。教育を除くと、かなり教員の個人差があるように思われる。これらは昨年と大差はない。
- (2) 博士学生の指導数は昨年に続き教授一人あたりほぼ1であり、これを高める必要がある。これも教員の個人差が大きい。教授はもっと積極的に博士学生を受け入れる姿勢とその努力が問われている。

理工学部評価委員会委員名簿

委員長	中 島	晃	(理工学部長)
委員	吉 野	英 弘	(副学部長)
委員	渡 邊	訓 甫	(副学部長)
委員	荒 牧	軍 治	(佐賀大学評価委員)
委員	山 部	長兵衛	(佐賀大学評価委員)
委員	大 石	祐 司	(理工学部教務委員長)
委員	市 川	尚 志*	(数理学学科)
委員	鄭	旭 光*	(物理科学科)
委員	山 下	義 行*	(知能情報システム学科)
委員	北 村	二 雄*	(機能物質化学科)
委員	大 野	信 義*	(機械システム工学科)
委員	西 尾	光 弘*	(電気電子工学科)
委員	鬼 塚	克 忠*	(都市工学科)
委員	林 田	行 雄	(学部長指名委員)
委員	志 波	政 孝	(理工学部事務長)

* 各学科委員は平成 18 年度教員個人評価実施委員（学科長）で、本報告書を取りまとめた。